浜田温泉資料館（旧浜田温泉）について

　この建物は、昭和 10 年に当時の亀川町よって建設されました。設計を担当したのは浜脇高等温泉などを手がけた別府市役所技師の池田三比古氏です。池田氏は吉田鉄郎氏（旧逓信省技師で日本の近代建築を代表する建築家）に従事した別府市を代表する建築家です。

　唐破風の玄関の上に千鳥破風をのせた重厚な宮造りで、別府市に現存する和風木造温泉建物としては最も古いものです。唐破風の温泉建築は関東大震災以降、東京の銭湯で流行しました。寺社建築によく用いられていることから、唐破風の玄関をくぐると極楽があるといった考え方や、災難などから逃れるといった意味があったのではないでしょうか。

　平成 16 年に老朽化のため解体されましたが、篤志家からの寄付により翌 17 年に復元されました。

浜田温泉資料館内をご案内します。

玄関前の地面には不思議な穴が
いくつも・・・（答えは後で）

玄関を入ると、右側はコミュニティーフロアがあります。

コミュニティーフロアに展示されている資料

左「温泉マークタイル版」
別府観光の父油屋熊八翁が好んで
使用した温泉マークです。

右「熊八翁手形」
油屋熊八翁が別府を全国的にＰＲ
したものの一つが自分の大きな掌。
その原寸大の手形です。

懐かしの別府八湯の写真

昭和 24 年当時の別府市温泉分布図

玄関を入って左側は浴場跡です。

階段を降りると

旧浜田温泉で使用していた「鬼板」などを展示しています。

浜田温泉浴槽跡

浜田温泉の浴槽はなぜ地下にあるんでしょうか？

浜田温泉に限らず、温泉地の多くは浴槽が地下に設置されています。温泉は地面下から湧出しますが、間欠泉（かんけつせん）など噴き上げる力が強いもの以外は、地面より上には噴き上がりません。

そこで、浴槽に温泉をためるためには地面より下に噴き出し口をつくる必要があるのでこのような構造になっています。

右手を見ると・・・

蒸し湯跡

天井には、丸い穴から漏れる光

※玄関前に穴は、この蒸し湯の明かり取りの穴でした。

蒸し湯について

　蒸し湯は石風呂あるいは乾浴ともいい、江戸時代までは庶民の一般的な入浴方法でした。
　その入浴方法は、熱した石に水を注いだり、あるいは植物（石菖）を焼いたときに発生する蒸気を浴びたりするもので、今でいうサウナのようなものでした。
　別府ではこのような方法で蒸気を発生させる代わりに、豊富な噴気を利用しており、一般に蒸し湯と呼ばれていました。